

特定鳥獣(カワウ)の保護及び管理に係る研修会

研修資料

この研修資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Webでの掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしている場合があります。

令和元年度特定鳥獣(カワウ)の保護・管理に係る研修会

対 象: 都道府県もしくは市町村の鳥獣及び水産等行政担当者

開 催 日: 2019年12月18日(水)~20日(金) 2泊3日

場 所: 府中市市民活動センター プラッツ 第2・3会議室

講師と科目: 加藤ななえ(カワウの生態と生息状況)

加藤洋(モニタリングの必要性和課題)

中山ちさ(鳥獣保護管理の法制度等)

染川洋(カワウ被害対策について)

高木憲太郎(カワウの個体群管理の考え方)

山本麻希(グループワーク進行について)

本間諭(群馬県の特定計画における個体群管理の進め方)

長田隼(天竜川における(地域実施計画と)対策内容)

間野智也(特定計画における個体群管理と広域連携の調整)

岩本有司(県内を4つのユニットに分けた管理計画の運営)

山本麻希(課題克服のために(新潟県の事例))

加藤洋(個体数調整の現状と最新技術)

坪井潤一(分布管理の現状と最新技術)

室内実習: グループワーク: 課題抽出と課題の優先順位づけ、課題克服への手法検討とまとめ

実習指導: 加藤洋、高木憲太郎、加藤ななえ、山本麻希、坪井潤一、本間諭、間野智也、岩本有司、

服部優樹

群馬県の特定期間における個体群管理の進め方

群馬県鳥獣被害対策支援センター

本間 諭

群馬県のこれまでの取り組みと、今後について

群馬県の現状

群馬県のカワウの生息状況は現在、ねぐら10箇所、コロニー4箇所、主な採食場30箇所を確認しています。生息数は過去最高数の平成25年度1154羽だったのに対し、平成30年度には923羽まで減少をしています。ここ5年間では生息数、被害額は概ね減少傾向となっており、これまでの対策の効果が反映されていると思われます。

カワウの被害については水産被害と生活環境被害が発生しており、河川湖沼、養殖場での水産資源への食害、カワウがいると魚が釣れないといった風評被害、景観等への悪化も上げられています。また、コロニー周辺では、糞害や騒音による生活環境被害が発生しており、被害が深刻化しています。漁業被害額は平成27年度には1億8千8百万円となりましたが、生息数の減少により、被害額も減少はしていますが、いまだに1億円を越える金額となっており、漁業関係者を悩ませています。

群馬県の特定期間

このような現状から、群馬県では平成26年に第二種特定鳥獣管理計画（適正管理計画）を策定し、現在2期目となっています。

管理の目標は「内水面漁業被害への対応を最優先課題とし、被害を軽減するため、平成24年度の水準（960羽）から平成34年度には半減の480羽までにする」とし各種対策を実施しています。

対策の方針としては、ねぐら・コロニーと、河川とでそれぞれの対応策を分けて策定、実施するとともに、モニタリングの継続と、その結果を次の対策に反映させることとしています。

これまでの対策

カワウ対策は、河川では漁協関係者を中心に有害鳥獣捕獲、追い払い等を実施し、ねぐら・コロニーでは鳥獣被害対策支援センターが個体数調整、繁殖抑制を実施しています。高津戸コロニーで実施した個体数調整（カワウシャープシューティング）は3年間の実証事業でしたが、効果があると認められ、今年度も実施予定です。また、真壁コロニーでは生活環境被害から、繁殖抑制（ドライアイス法）を行いました。

今後の取り組み

適正管理計画を基に、直接的な対策として、個体数調整、繁殖抑制、駆除等を実施するとともに、間接的な対策として、研修会の開催、捕獲者の育成、協議会の設立等の実施を検討しています。

特定計画における 個体群管理の進め方

群馬県のこれまでの取り組みと、今後について

群馬県鳥獣被害対策支援センター

R1.12.19

2. 群馬県のカワウ被害について

水産被害

- ▶ 河川湖沼・養殖場でのアユやマス類等の水産資源への被害
- ▶ 過去には最大1億9千万円の被害額を記録し、生息数が減少しつつある現在も、1億円を下らない被害額
- ▶ 漁場へのカワウの飛来による魚が釣れないとされる風評被害
- ▶ ねぐら・コロニー付近での景観悪化等による観光業への影響や、希少魚捕食による生態系被害も懸念されている。

生活環境被害

- ▶ 生息地付近では糞や鳴き声による生活環境被害

1. カワウの生息状況

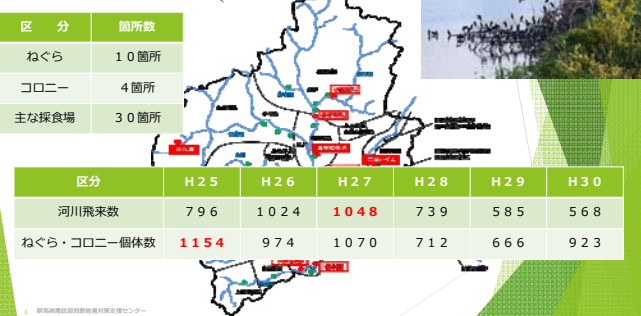


3. カワウの被害額・被害量・個体数等

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
被害額(百万円)	145	179	188	119	107	117
被害量(t)	152	187	197	125	113	123
河川飛来数	796	1024	1048	739	585	568
ねぐら・コロニー個体数	1154	974	1070	712	666	923
目標個体数			872	770	668	630

個体数はねぐら・コロニー調査による。
目標個体数は適正管理計画によるH24水準の半減値を目標に設定

1. カワウの生息状況



4. 群馬県の第二種特定鳥獣管理計画について

- ▶ 群馬県では内水面漁業被害の軽減により、人とカワウとの軋轢解消を目指すとし、平成26年に群馬県カワウ適正管理計画を策定しました。
- ▶ 現在は第2期目、計画の期間は
平成31年4月1日から令和6年3月31日

5. 適正管理計画における目標と対策の方針

適正管理の目標

- ▶ 内水面漁業被害への対応を最優先課題とし、被害を軽減するため、年平均個体数を平成24年度の水準（960羽）の半分 → 平成34年度（480羽）

対策の方針

- ▶ まずは、ねぐら・コロニーと、漁業被害の現場となる河川とでそれぞれの対応策を策定し、実施する。
- ▶ モニタリングの継続と結果を次の対策に反映させていく順応的管理を行うこと。

群馬県自然環境政策推進センター

個体数調整 カワウシャープシューティングの実施①



日の出前の関係者による
ミーティング・KYの実施



イーグレットオフィスによる
カワウシャープシューティング

群馬県自然環境政策推進センター

対策実施地	ねぐら・コロニー(生息の拠点)	採食地(河川湖沼・産卵場)
対策の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・定着コロニー3カ所を上限に管理(個体数増加の抑制・減少) ・新規コロニーは除去・ねぐら化 ・ねぐらはコロニー化防止・拡大防止。新規成立を阻害 	<ul style="list-style-type: none"> ・守るべき時期、箇所、対象を明確にした上で対策を継続・改善
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ・分布の管理(モニタリング)(監視・追い払い・個体数等の生息状況把握) ・個体数調整(繁殖抑制・捕獲(有害・個体数・学術)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個体数調整(捕獲(有害・学術))
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・被害防除対策(追い払い・捕獲(有害)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害防除対策(追い払い・着水防止・魚の避難場所設置・捕獲(有害))
生息環境管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ねぐら・コロニー管理(利用域制限・樹木伐採) 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類の成育環境保全(河川環境整備)
情報収集・共有	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング(新規ねぐら・コロニーの把握) 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング(飛来数/飛来日数の把握・胃内容物調査)
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有、発信(情報提供・啓発) 	

群馬県自然環境政策推進センター

個体数調整 カワウシャープシューティングの実施②



カワウシャープシューティングによる捕獲個体(赤丸は空気銃の弾痕)



飲み込む寸前の魚

群馬県自然環境政策推進センター

6. コロニーへのこれまでの対策 (個体群管理)

コロニー	対 策
高津戸ダム	モニタリング H28~30実証事業 カワウSS 現在も実施中
南陽台	モニタリング H28:カワウSS
真壁調整池	モニタリング H30:ドライブス R1:追い払い



群馬県自然環境政策推進センター

個体数調整 カワウシャープシューティングの実施③



湖面に浮かぶ回収前のカワウ



湖面のカワウの回収作業

群馬県自然環境政策推進センター

個体数調整
カワウシャープシューティングの実施④



カワウシャープシューティングによる捕獲個体

個体のデータの計測、胃の採取

繁殖抑制（ドライアイス法）②



ドライアイス投入作業

鏡で確認しながらのドライアイス投入作業

個体数調整
カワウシャープシューティングの実績

- ・ H 2 8 年度より 3 年間の実証事業としてカワウ S S を実施
- ・ 実施場所は高津戸ダムと南陽台（H 2 8 のみ）
- ・ 3 年間の実証により生息数、被害額が減少したことから、カワウ S S は個体数調整に効果があると評価
- ・ R 1 以降についてもカワウ S S を実施することを決定

	H 2 8	H 2 9	H 3 0	計
高津戸ダム	4 6 7	2 3 2	2 0 5	9 0 4
南陽台	1 6 7	—	—	1 6 7
計	6 3 4	2 3 2	2 0 5	1 0 7 1

繁殖抑制（ドライアイス法）③



ドライアイス投入作業

ドライアイス投入作業

繁殖抑制（ドライアイス法）①



ドライアイス投入作業（12mの釣り竿）

管理用のナンバリング

繁殖抑制（ドライアイス法）④



ドライアイス投入作業前

ドライアイス投入作業後

7. 今後の取り組みについて①

カワウに対しての直接的な対策

- ▶ コロニーでのカワウス S
- ▶ ドライアイスによる繁殖抑制
- ▶ 河川での有害鳥獣駆除・被害防除対策
- ▶ 新規ねぐら・コロニーのモニタリング・撤去



群馬県鳥獣害防除対策推進センター

7. 今後の取り組みについて②

カワウに対しての間接的な対策

- ▶ 研修会・勉強会によるレベルアップ
- ▶ 捕獲者の育成
- ▶ 協議会の設立
- ▶ 関東圏での広域対策



群馬県鳥獣害防除対策推進センター

群馬県のカワウ情報

- ▶ 群馬県カワウ適正管理計画
<https://www.pref.gunma.jp/04/e2300313.html>
- ▶ 群馬県のカワウのねぐら・コロニーモニタリング調査結果
<https://www.pref.gunma.jp/06/p16200004.html>
- ▶ 群馬県のカワウの駆除及び対策
<https://www.pref.gunma.jp/06/f2210017.html>

その他、「群馬県庁 カワウ」で検索してください。



群馬県鳥獣害防除対策推進センター